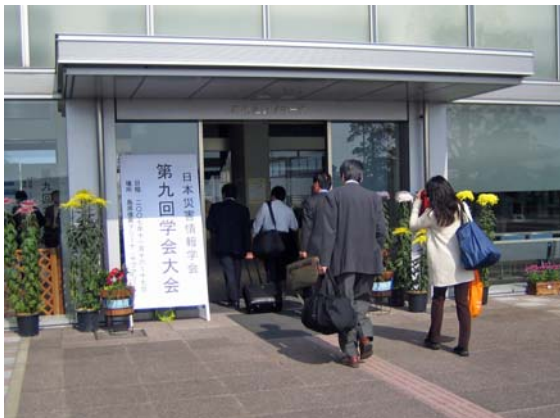


全国から 120 人を超す会員が参加した。



開会の挨拶をする阿部勝征会長
「学会大会が情報交換と会員の交流の場になることを期待します」



研究発表の申込みは過去最多の 60 件となり 2 会場での同時発表となった。



懇親会（九十九ホテル）



乾杯の音頭は宇井忠英副会長



懇親会には、大会会場を提供してくれた島原市の吉岡庭二郎市長、2日目の巡検に協力してくれる国交省雲仙復興事務所の秦耕二所長も参加。



懇親会場で廣井基金への寄付を募った。
52,680 円の浄財が寄せられた。

被災地・復興地視察（巡検）

雲仙・普賢岳の被災地・復興地の視察を行った。90人が参加した。

島原市役所噴水側（集合場所① 8:35 発）→ 外港（集合場所② 8:50 発）→ 火砕流でマスコミなど多くの犠牲者を出した「定点」→ 消防団員詰め所だった農業研修所跡 → 旧大野木場小学校・防災みらい館見学 → 安中三角地帯（壊滅的被害を受けたが見事に復興した水無川と水無川導流堤に囲まれた地域）→ 大会会場（島原復興アリーナ）11:40 到着予定



普賢岳の火砕流で20人が犠牲になった「定点」から普賢岳を望む



献花する阿部会長



報道車両の残骸 →
被災者に当時の話を聞く





北上木農業研修所跡地

研修所につめていた消防団員 12 人が 6 月 3 日の大火砕流の犠牲になった。



犠牲者に黙禱



展示されている消防車両などの残骸



旧大野木場小学校・防災みらい館



6月3日の大火砕流パネル



宇井副会長のミニ解説



防災みらい館・監視室

安中三角地帯

水無川と水無川導流堤に囲まれた約93ヘクタールの安中三角地帯と呼ばれる区域は、土石流に幾度となく見舞われ埋没状態になった。住民の要望を受けて土地全体を平均約六メートルかさ上げする事業が5年かけて実施され、復興した。



三角地帯内の安中再生記念公園



さらにかさ上げされた土地



かさ上げ事業を住民の立場から推進したNPO法人島原普賢会の大町辰朗理事長から説明を聞く。



公園内に復元、保存された湧水「われん川」



第9回日本災害情報学会総会



第4期理事・監事（2008.04～2011.04）、
2006年度決算報告、2007年度予算案など承認

2007年 廣井賞授与式

日本災害情報学会は2006年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、初の授与式を11月17日、学会大会席上で行った。

初の栄誉に輝いたのは、学術分野では富士山の火山防災や防災教育に力を入れている小山真人静岡大学教授と、社会心理学の面から新分野の風評被害の研究に取り組んでいる関谷直也東洋大学講師、それに社会分野では災害時にライフライン情報を共有するネットワークを構築し、1996年以来模擬放送などを継続的に行っている在京ラジオ災害情報担当者会議。



左から藤吉洋一郎審査委員長、小山氏、関谷氏、在京ラジオ災害情報担当者会議代表の手島里華 J-WAVEアナウンサー、阿部勝征会長

閉会挨拶



高橋和雄第9回大会実行委員長



大会会場より夕暮れの普賢岳を望む